

SUSTAINABILITY REPORT 2023



株式会社カナック

●表紙イラストに込めた思い

イラスト:製造部 岡田さん

Q. 2年目のイラストとなりますが、どんな思いを込めて描きましたか？

1年目(2022年)は、植物の苗を植え、水やりを一人で取り組んでいたました。2年目(2023年)になり仲間が増え、植物の苗も少しずつ成長しています。これは、「これから、どんどん仲間を増やして成長していくぞ!」という思いを込めて描きました。

Q. 作品を描く際に工夫した点や難しかった点は？

あえてゆるい線で描き、柔らかさを出すことで、ぬくもり、優しさを表し、柔軟で多様な価値を認め行動していきたいという意思表示を出しました。

イラスト(表紙)履歴	
2022年	2023年
 <p>The illustration for the 2022 Sustainability Report features a person on a ladder watering a globe. The globe is decorated with a recycling symbol, a power button, and a circular arrow. The text 'SUSTAINABILITY REPORT 2022' is at the top, and 'CHALLENGE' is at the bottom. The company name '株式会社カナック' is at the very bottom.</p>	 <p>The illustration for the 2023 Sustainability Report shows two people on ladders working together to plant a tree on a globe. The globe is white and surrounded by small stars. The text 'SUSTAINABILITY REPORT 2023' is at the top, and '株式会社カナック' is at the bottom.</p>

●方針

目的

本報告書は、社内外の関係者にむけて、弊社の環境に関する活動・情報を発信・開示するために作成いたしました。

範囲

国内（本社、東海営業所、藤枝工場、東海工場、北海道工場）

期間

2023年度（2023年2月～2024年1月）

次回レポート予定日

2024年8月

作成

経営戦略室



●Table of contents

1. コーポレートメッセージ
2. 会社概要
3. 私たちの方針
4. カナックの化学技術で日本のものづくりに貢献
5. 経営統合に伴う、SBT (Science Based Targets)の目標設定変更
6. 減らすためのロードマップ
7. 温室効果ガス(CO₂)排出量報告
8. 第二期 SDGs 活動報告
9. カナック SDGs 宣言

●コーポレートメッセージ

1988年にカナックが設立され、2023年までの約35年間の間に、私たちの暮らしは気候変動を肌で感じるほどに変化しました。この地球環境の変化は、企業経営の脅威であり、今後大きなリスクをもたらすと考えています。だからこそ今、私たちは地球環境に目を向け、真摯に向きあい、変化に柔軟に対応することが求められていると考えています。

社内での環境への取組を開始して2年が経過しました。

令和5年度を振り返ると、5月新型コロナウイルス感染症が5類に移行されました。しかし、ウクライナとロシアの戦争は続き、大型の台風予報で国内のインフラは計画運休があり、社会の意識と行動が少しずつ変わったように感じています。また、報道では「線状降水帯」や「熱中症警戒アラート」等、ここ最近で耳にする単語が私たちの生活に大きく関与してきています。

環境問題に向き合うことは、企業経営において責務であり、私たちはSDGsを活用して社内での意識向上と行動を促進し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

私たちはカーボンニュートラル達成に向け、SBT(Science-Based Targets)を取得、2030年までのCO₂排出量に目標を定め、社内での取り組みを進め、今後は、「カナック処理」を通じて、金型や治工具の長寿命化を実現し、温室効果ガス(CO₂)排出量削減(カーボンニュートラル)と資源保護(サーキュラーエコノミー)という新しい価値を提供します。

「私たちは日本のものづくりと共に寄り添い、対話を通じ、製造業に関わるすべての人や地域と、活力ある未来を探求し続けます。」とSDGs宣言し、事業を運営いたします。

●会社概要

- 会社名 株式会社カナック
- 代表者名 堀越 弘也
- 事業内容 表面処理(窒化处理)
- 所在地 藤枝市仮宿 1634-1
- 創立 1988年8月
- 資本金 1,100万円
- 社員数 60名(国内)

【拠点】

- 本社・藤枝工場



- 東海営業所・東海工場

● 私たちの方針

【サービス】

カナック処理による金属の硬さを保証し、お客様と時代のニーズに応えるしなやかなサービスを提供することで、お互いの持続可能な成長を追い求めます。

【環境】

未来の環境をより豊かなものとする為に、社内での CO2 排出削減活動を推進します。また、カナックの化学技術で、お客様の環境負荷低減に貢献します。

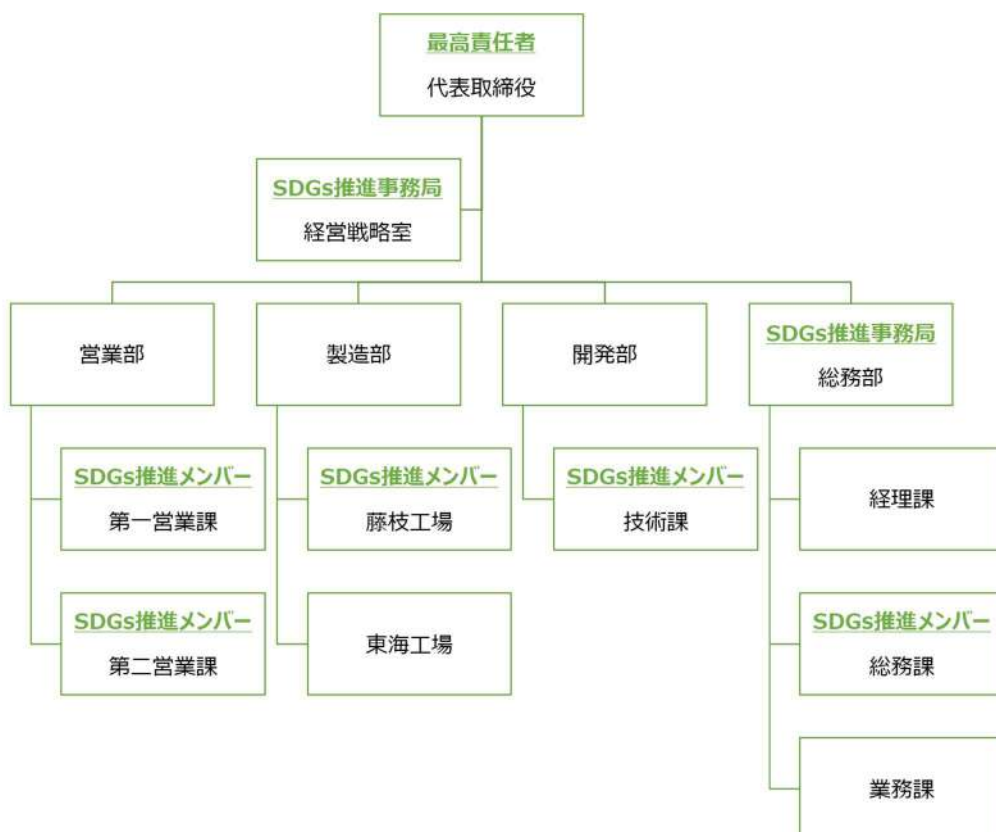
【人権・働きがい】

人種・国籍・性別・年齢・障害の有無・価値観・働き方等、一人ひとりの多様性を認め、尊重し、支え合うことで、理想的な職場を実現します。

【地域・社会貢献】

持続可能な地域社会の実現に向けて、課題を学び、地域への貢献活動に積極的に参画いたします。

● 2023 年度の体制



●カナツクの化学技術で日本のものづくりに貢献

弊社は環境省が主催します、第11回グッドライフアワード「環境人づくり賞」を受賞致しましたので、取組の詳細をご紹介します。



取組名称

金型の”Long life”を実現し CO2 削減と資源循環を目指す

取組の要旨

ものづくりの現場で用いられる金型に表面処理を施すことで、製品生産時の摩耗を防ぐことにより、金型の Long Life を実現します。日本のものづくりを支える金型には、鉄鉱石の採掘、資源の調達、製鉄、加工、ものづくり(製造)、リサイクル(廃棄)と多くの資源を投入し、環境負荷がかかっています。

取組の実績

複合機メーカー様に弊社の表面処理を用いて頂く事で、類似条件の金型を用いて無処理の金型とカナツク処理を施した金型の製品生産数を比較して頂きました。無処理の金型は製品生産数 64 万個、修理履歴 17 回。弊社表面処理を施した金型は製品生産数 130 万個、修復履歴数回と Long life が実現しました。私たちはこの結果をより精度の高いものにする為に、定例会議を実施し、弊社表面処理をした際の金型の製品生産数や修復履歴の違いから、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーへの貢献度を検証、提案していきます。

	無処理	カナツク処理
金型廃棄時の写真		
金型廃棄までの製品生産数	64万個	130万個
金型廃棄までの修理履歴	17回	数回

無処理の金型(左側)

64 万個の製品を生産するあいだに、17 回もの溶接修理によって、茶色く変色しているのが分かります。

カナツク処理後の金型(右側)

2 倍以上の 130 万個の製品を生産しましたが、光沢があり、溶接修理は数回と少なく、時間とコストを減らすことができました。

サーキュラーエコノミー(Circular Economy)

金型のLong Lifeを実現し資源を最大限に活用

	無処理		カナック処理
金型廃棄までの 製品生産数	64万個	203% →	130万個
130万個生産当たりの 必要型数	3型	2型減 →	1型

130万個の製品生産において、従来は3型の金型製作が必要でした。しかし、カナック処理をすることで、1型の金型製作で製品生産が可能となり、2型分の資源が不要となりました。

カーボンニュートラル(Carbon Neutral)

金型のLong LifeによりCO₂排出量の削減に貢献

	無処理		カナック処理
金型廃棄までの 製品生産数	64万個	203% →	130万個
130万個生産当たりの CO ₂ 排出量	441.21t-CO ₂	63%削減 →	164.01t-CO ₂

金型が廃棄までにかかるCO₂排出量には、鋼の購入・加工、資本登記、輸送、生産、廃棄と様々なCO₂が排出されています。無処理の金型3型分のCO₂排出量は「441.21t-CO₂」、金型1型にカナック処理をした際のCO₂排出量は「164.01t-CO₂」、130万個の製品生産するに当たり、63%のCO₂が削減することが可能となりました。

取組評価

<h3>① 環境への貢献</h3> <p>天然資源 100% 日本の鉄鋼生産に占める輸入量</p> <p>鉄の生産 14% 日本のCO₂排出量</p> <p>加工 10年分 日本のCO₂排出量に相当する電力</p> <p>つかう 25% 日本のCO₂排出量</p> <p>リサイクル 0.5% 日本のCO₂排出量</p> <p>日本のものづくりを支える金型には、多くの社会課題があります。資源の調達から生産、加工、廃棄までには多くの CO₂ が排出されており、サプライチェーン全体で課題と向き合う必要があります。</p>	<h3>② 社会・経済への貢献</h3> <p>複合機メーカー様、CO₂ 排出量削減コンサルタント、株式会社カナックでの3社定例環境会議を実施、CO₂ 削減実績の精度向上や、環境問題や、各社の取組事例等を共有することで、地域の</p>	<h3>③ 地域資源の活用</h3> <p>2500 (千円)</p> <p>2000</p> <p>1500</p> <p>1000</p> <p>500</p> <p>0</p> <p>愛知県 神奈川県 静岡県 大阪府 岐阜県</p> <p>カナックの工場がある静岡県と愛知県は 2020 年、日本の金型生産高 3 位と 1 位です。金型業界にも表面処理を広く普及することで、地域資源を大切に、長く使うことが可能になる。</p>
<h3>④ 普及・汎用性</h3> <p>金型だけでは、Cr (クロム) があれば高い汎用性があります。工場内設備部品の配管、チェーン、ホッパー、ドリル等様々な用途にも活躍中です！</p>	<h3>⑤ 革新・ユニーク性</h3> <p>カーボンニュートラル CO₂排出量削減 生産・製造コスト削減</p> <p>サーキュラーエコノミー 新たな資源の導入抑制 サプライチェーンのエネルギー削減 廃棄物の発生を減少 リサイクル時の負荷なし</p> <p>従来の付加価値（「金型製作コスト削減」「段取替えコスト削減」「品質向上」）に、「CO₂ 排出量削減」「資源循環」という新しい付加価値を提案し、地球と社会に貢献するカナックへと成長してい</p>	<h3>⑥ 継続性</h3> <p>私たちは日本のものづくりと共に寄り添い、対話を通じ製造業に関わるすべての人や地域と活力ある未来を探索し続けます</p> <p>金型の Long Life 実現を前提として、お客様の問題や課題としっかりと寄り添い、対話をする営業力強化が必要と認識しており、協創価値になり得る SDGs 宣言を基本に環境営業を推進します。</p>

ものづくりを支える陰の立役者として、表面処理を広く普及させ、環境と生産性向上を目的とした販路の拡大。SBT 目標設定に準じた、自社の CO₂ 排出量削減を実施。今後は、表面処理をしても CO₂ 排出「0」を目指して取組、「ゼロカーボン表面処理」を目指します！

●経営統合に伴う、SBT (Science Based Targets)の目標設定変更

地球環境の保全は、事業運営上必要不可欠な経営課題の一つとして認識しており、パリ協定が求める水準と整合した、温室効果ガス排出削減目標を設定いたしました。持続可能な社会に向け、社内外での取り組みを進めて参ります。



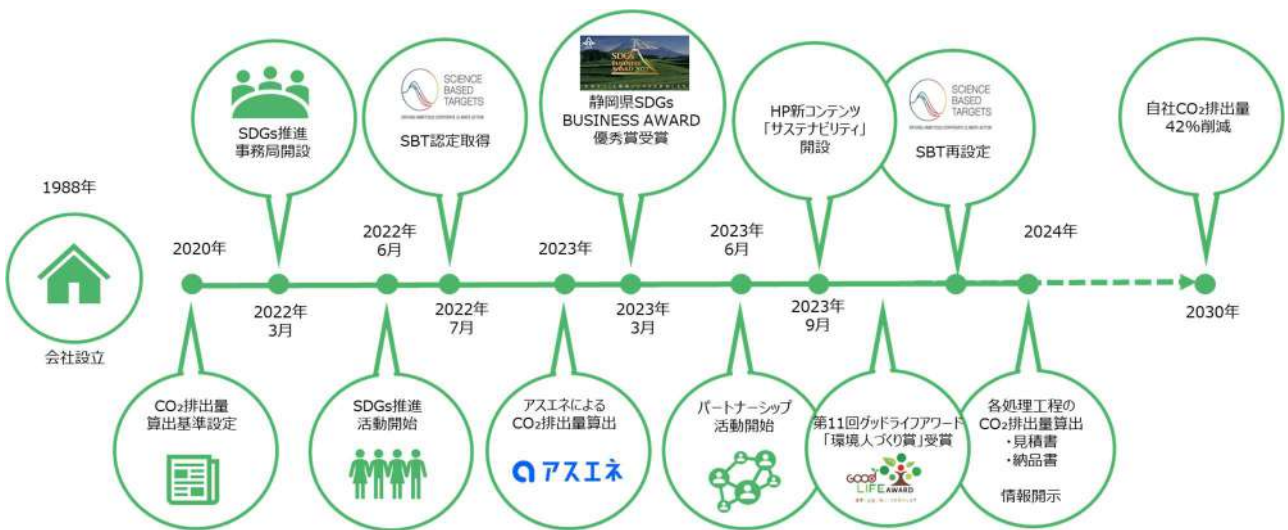
目標水準:WELL-Below1.5℃

基準年:2022年

目標年:2030年

概要:Scope1とScope2の排出を基準年の42%削減、Scope3の排出量を測定し削減

●減らす為のロードマップ



地球温暖化の原因である温室効果ガスによる地球環境の悪化は、もはや待ったなしの状態です。カナックは、2050年までにカーボンニュートラルを達成するため、企業全体での取り組みを進めています。大きな流れとして、「知る」、「減らす」、「作る」、「選ぶ」、「融通する(その他)」のフレームワークで取組を検討し、現段階では「減らす」。今後は、「作る」取組を検討、実施していきます。

① 知る

カナック全体でどのくらいCO₂を排出しているのか。また、弊社処理を施すことで発生するCO₂排出量はどのくらいなのかを測定し、お客様には1次データとして提供する。

② 減らす

事業から発生する廃棄物の分別とリサイクルに取り組むと同時に、廃棄物の削減に向けて小規模な取り組みを継続的に推進してまいります。さらに製品の配達および引取りにおいては、エコドライブを心掛けつつ、今後は環境に配慮した車両の導入についても検討しています。

また、2023年度には静岡工場を閉鎖し、藤枝工場に統合致しました。これにより、多くのScope1,2を削減することが可能となりました。大きな工場には多くのメリットもありますが、一人ひとりの創意工夫で小さな工場でも稼働率を上げること、CO₂排出量削減にも寄与することができました。

③ 作る

再生可能エネルギーの導入を通じて、間接的なCO₂排出の削減に取り組むとともに、エネルギーの効率化にも力を入れ、省エネルギー化しています(既に営業所・工場の照明をLED化済みです)。

④ 選ぶ

購買に際して、リサイクルに取り組んでいる製品を選択することや、グリーン電力の導入を検討します。

⑤ 融通する(その他)

静岡県が主催する SDGs ビジネスアワードにエントリーし、採択され、最終的に優秀賞を受賞しました。また、今期は環境省が主催するグッドライフアワード「環境人づくり賞」を受賞することが出来ました。これらのアワードを通じて、藤枝市役所環境政策課の皆様や焼津特別支援学校の皆様など、さまざまな地域の方々と出会う機会を得て、「持続可能な社会を実現する」という共通の志を持つ多くの仲間を繋がることができました。今後も、協力のネットワークを広げるため積極的に活動していきます。

●温室効果ガス(CO2)排出量報告

カナックは、「次世代によりよい世界」をビジョンに掲げ、グローバルにサステナビリティ経営を支援するアスエネ株式会社様の提供するクラウドサービス「アスエネ」を使用しております。「アスエネ」は、国際規格 ISO14064-3 に準拠した信頼性のある CO2 排出量算定が可能です。又、毎月 CO2 排出量を減らしていくためにはどうしたらよいかを話し合い、目標達成に向けてサポートもいただいております。



自社の CO2 排出量削減に加え、今後は 2024 年からはじまるサプライチェーンの一次データの取得・回収を要請する日本政府の方針にこたえうるよう、弊社処理をほどこした場合の CO2 排出量のデータ提供に向けて社内に対応を進めております。

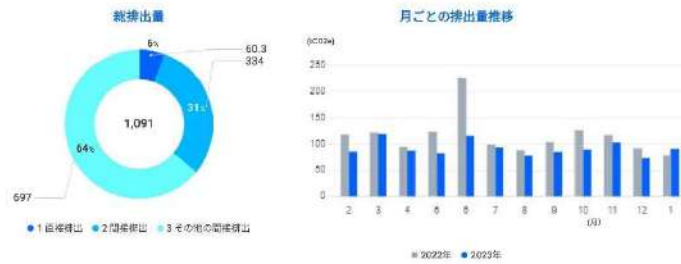
CO2 排出量レポート:カナック全体

CO2排出量レポート

拠点: 拠点すべて
 期間: 2023年2月~2024年1月

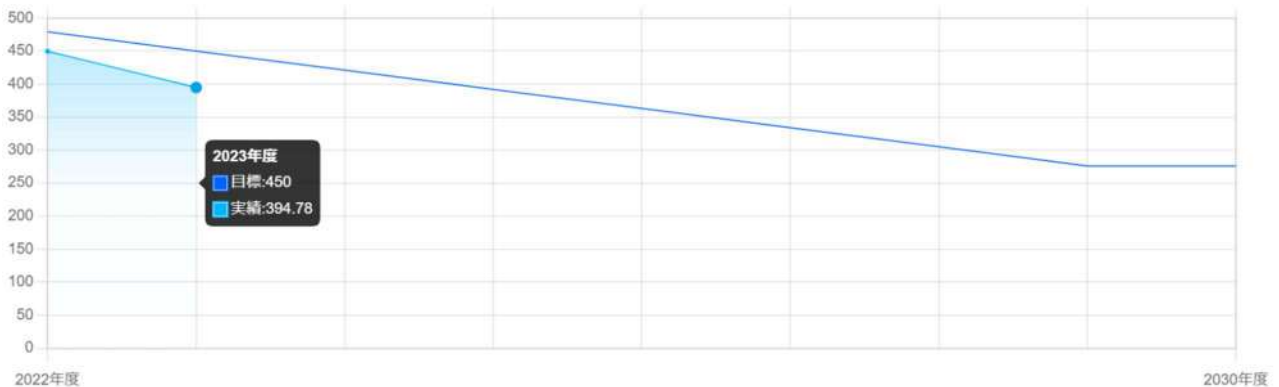
総排出量 **1,091** tCO2e

オフセット反映量 **0** tCO2e
 再生可能エネルギー率 **0%**



スコープ	カテゴリ	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
スコープ1	直接排出	60.3	5.5%
スコープ2	間接排出	334	30.6%
スコープ3	その他の間接排出	697	63.8%
	1 購入	518	74.5%
	2 資本財	14.7	2.1%
	3 その他燃料	40.8	5.8%
	4 輸送 (上流)	22.7	3.8%
	5 寄附品受取	7.52	1.0%
	6 従業員の出張	26.3	3.7%
	7 従業員の通勤	61.9	8.8%
その他の間接排出	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 資産の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フロンチャージ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		1,091	-

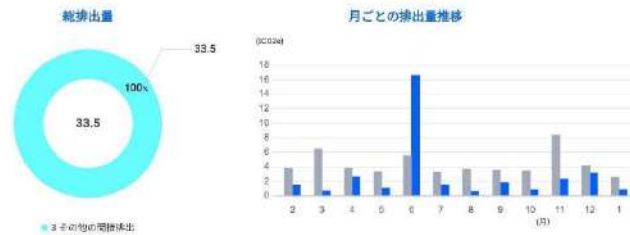
削減目標・実績 ※SBT 目標設定に準ずる Scope1&Scope2



CO2 排出量レポート:カナック本社

CO2排出量レポート

拠点: カナック、本社、株式会社カナック	総排出量 33.5 tCO2e
期間: 2023年2月~2024年1月	
オフセット反映量	0tCO2e
再生可能エネルギー率	0%



スコープ	カテゴリー	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
スコープ1	自産排出	0	-
スコープ2	買入排出	0	-
スコープ3		33.5	100%
その他の間接排出	1 購入	12.9	38.4%
	2 資本財	-	-
	3 その他燃料	-	-
	4 輸送 (上流)	-	-
	5 包装廃棄物	-	-
	6 従業員の出発	20.7	61.6%
	7 従業員の通勤	-	-
	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 廃品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		33.5	-

※Scope1、Scope2、Scope3 の CATEGORY3,4,5 においては、藤枝工場含む

CO2 排出量レポート: 藤枝工場

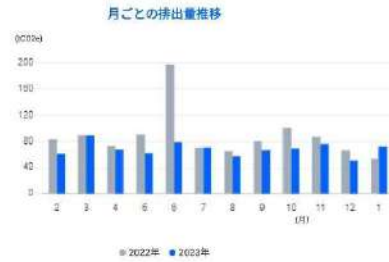
CO2排出量レポート

拠点: 藤枝工場、製造、株式会社カナツク
 期間: 2023年2月~2024年1月

総排出量 **813** tCO2e

オフセット反映量 **0** tCO2e

再生可能エネルギー率 **0%**



スコープ	カテゴリー	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
スコープ1	直接排出	25.3	3.11%
スコープ2	間接排出	206	25.4%
スコープ3		582	71.5%
スコープ3	1 購入	457	78.7%
	2 資本財	11.7	2.02%
	3 その他燃料	24.2	4.16%
	4 輸送 (上流)	27	4.64%
	5 事業廃棄物	7.18	1.23%
	6 従業員の出張	5.63	0.97%
	7 従業員の通勤	48.4	8.32%
その他の間接排出	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 廃品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
	合計		813

CO2 排出量レポート: 東海工場

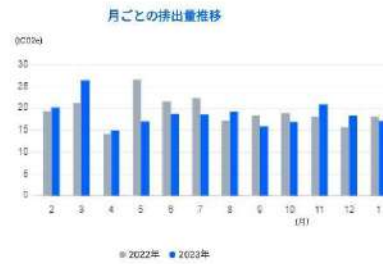
CO2排出量レポート

拠点: 東海工場、製造、株式会社カナック
 期間: 2023年2月~2024年1月

総排出量 **223** tCO2e

オフセット反映量 **0** tCO2e

再生可能エネルギー率 **0%**



スコープ	カテゴリー	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
スコープ1	直接排出	29.1	13%
スコープ2	間接排出	116	51.9%
スコープ3		78.5	35.1%
スコープ3	1 購入	46.5	59.4%
	2 資本財	2.95	3.76%
	3 その他燃料	14.4	18.4%
	4 輸送 (上流)	0.718	0.92%
	5 事業廃棄物	0.338	0.43%
	6 従業員の出張	-	-
	7 従業員の通勤	13.5	17.2%
その他の間接排出	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 廃品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		223	-

CO2 排出量レポート:北海道工場

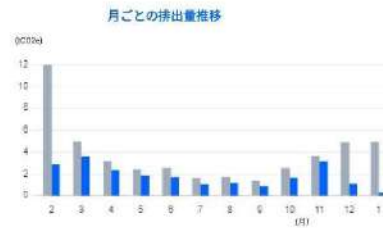
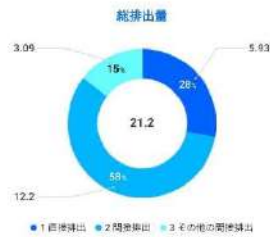
CO2排出量レポート

拠点: 北海道工場、製造、株式会社カネック
 期間: 2023年2月~2024年1月

総排出量 **21.2** tCO2e

オフセット反映量 0 tCO2e

再生可能エネルギー率 0%



スコープ	カテゴリ	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
スコープ1	直接排出	5.93	27.9%
スコープ2	間接排出	12.2	57.6%
スコープ3		3.09	14.5%
その他の間接排出	1 購入	0.97	31.4%
	2 資本財	-	-
	3 その他燃料	2.11	68.4%
	4 輸送 (上流)	0.00691	0.22%
	5 事業廃棄物	-	-
	6 従業員の出張	-	-
	7 従業員の通勤	-	-
	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 廃品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		21.2	-

●第二期 SDGs 活動報告

【第一回】2023.6.12 開催 Kick off ミーティング

テーマ「SDGs を理解し、強い SDGs チーム形成の準備をする」

Agenda

1. 本日の目的と目標
2. 自己紹介
3. チームビルディング「マシュマロチャレンジ」
4. カナックと SDGs の関係
5. 今後の取り組みに関して ～私たちの目標～
6. 最後に

第二期のメンバーの自己紹介の後、チームビルディングの一環として「マシュマロチャレンジ」を行いました。チャレンジは、乾燥パスタ、テープ、紐、マシュマロを使用して自立可能なタワーを作るゲームで、最も高いタワーを作ったチームが勝者となります。各チームは意見を出し合いながら協力し、一番高いタワーを目指しました。

次に、なぜカナックがカーボンニュートラルに取り組む必要があるのかを説明しました。気候変動や社会情勢に加え、カナック処理を施す金属がいかにSDGs と関わっているかを学びました。又、カナックにおける技術開発から製造までのバリューチェーンにおいて、SDGs の 17 の目標と 169 のターゲットが私たちの仕事とどのように関連しているかを考え、私たちができることを考えていただき、カナックと SDGs の関係を可視化していただきました。



【第二回】2023.7.24 開催 SDGs ミーティング

テーマ「自分を知り、リーダーシップを育む」

Agenda

1. 目的と目標
2. 仕事力とは
3. 価値観ワーク「ライフラインチャート」
4. 目標シート作成

まず、皆さんの仕事力について振り返っていただき、今後は SDGs メンバーが各部署でリーダーシップを発揮し、取り組みを進めるために必要な要素を学びました。

次に、スティーブ・ジョブズのスタンフォード大学卒業式でのスピーチの動画を視聴し、「行動」と「継続」の重要性をお伝えしました。その後、個々に「ライフラインチャート」を作成していただき、グループごとに過去の行動で重要なポイントについて対話(インプットとアウトプットを繰り返)していただきました。

各自のチャートにある出来事の点を振り返り、自らの価値観を把握し、今後のカナツクの業務にどのように反映させるか考えました。

最後に、第一回で学んだ「社会にはどのような課題があり、SDGs ではどのような取り組みが期待されているのか」という点を踏まえ、各自の業務と関連付けながら、目標シートを作成する時間を設けました。



【第三回】2023.8.21 開催 SDGs ミーティング

テーマ「仲間の目標を認め、自身の役割を超えて、より大きな成功を創造する」

Agenda

1. 本日の目的と目標
2. GalleryWalk Activity
3. ワールドカフェ
4. 目標シート修正

今回は、皆様が作成した目標シートを『Gallery Walk』の形式で展示し、互いのシートを閲覧していただきました。さらに、気づいた点や協力できそうな部分を書き留めていただきました。

次に、ワールドカフェの手法を用いて、「みんなの GOAL(目標)を達成する為には？」何が必要かというテーマで対話していただき、コミュニケーションやメンバー同士での協力、そしてリーダーシップの重要性を改めて認識しました。

最後には、それぞれの目標シートを『GalleryWalk Activity』で頂いた意見を確認し、取り組みを効果的に実行するための修正を行いました。



【第四回】2022.9.27 開催 SDGs ミーティング

テーマ「大谷選手に学び！目標を達成する手法を体得する！」

Agenda

1. 目的と目標
2. マンダラチャート作成、共有

メンバーそれぞれが掲げた目標を達成させる手段を学ぶため、メジャーリーグベースボールで活躍されている大谷翔平選手が活用していた目標達成シート「マンダラチャート」を作成し、目標達成に必要な要素を明確にしました。

今回は「マンダラチャート」の理解を深めるために、「社内の SDGs 前向きな気持ちを 50%達成する」というテーマに沿って、グループごとにアイデアを出し合いました。初めてのマンダラチャート作成には苦労しましたが、各グループのメンバーが協力し合い、最終的には完成させることができました。

最後に、各グループが完成したシートを共有しました。異なる視点や知識を交換することで、より深い理解を得ることができました。



【第五回】2023.10.16 開催 SDGs ミーティング

テーマ「クリアファーム様、榊原工業株式会社様から社外の取り組みを学ぶ」

Agenda

1. クリアファーム様 訪問による食体験
2. 榊原工業株式会社様 榊原社長より「榊原工業株式会社様が SDGs や CN に取り組む理由」

前半は、本社所在地である静岡県藤枝市仮宿にある「クリアファーム様」を訪問しました。静岡県が主催する SDGs Business award をきっかけに、代表を務める西村様と知り合いました。仮宿から生まれる SDGs への共感から、西村さんは支援者(アクセラレータ)として私たちに様々なお力添えくださりました。クリアファーム様では、西村様から仮宿の「食」「農」「観光」を活かして地域外からも多くの人を呼び込み、地域を元気にする取り組みについてお話をいただきました。

後半では、昨年 SDGs 事務局を立ち上げた際からお世話になっている榊原工業株式会社の代表取締役である榊原勝様に弊社にお越しいただき、同じ愛知県西尾地区に工場を構える企業として環境や SDGs への取り組みの理由についてお伺いしました。榊原工業株式会社は SBT 認定を取得し、環境省のグリーン・バリューチェーン・プラットフォームにおいて先進的な企業事例として紹介されています(https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/case_smpl.html)。榊原社長から直接お話を伺い、環境経営への取り組みに至った背景から、今後のビジョンに至るまでのお話をいただきました。社長の強い推進力によって、「思い」が具体的な取り組みとなっていく様子に、私たちは力を分けていただいたような印象を受けました。



【第六回】2023.11.20 開催 SDGs ミーティング

テーマ:環境保護活動への取り組みに参加し、環境への理解を深めよう

Agenda

1. 目的と目標
2. EARTH DAY 振り返り
3. Thinking Time
4. Decision Time
5. 相談 TIME 70min

今回は、2024年4月22日のEARTH DAY(地球の環境について考え、行動する日)に向けて、2023年度の取り組みを振り返りながら、来年度においてどのような取り組みができるかを、ワールドカフェの手法を用いて「カナツらしい EARTHDAY の取り組み」について、様々なアイデアをだしあいました。

最終的には、アイデアを絞り込み、地域貢献活動と古紙回収活動の2つの取り組みを行うことに決定しました。次回のミーティングでは、それぞれの活動ごとにチームを編成し、詳細な計画を進めていきます。

EARTH DAY はひとりひとりが小さな努力を重ねて、大きな変化を生む日。みんなで手をつないで、共に地球を元気にするための活動を継続していきます。



【第七回】2024.2.26 開催 SDGs ミーティング

テーマ:成果や結果を共有し、次の成果や結果をよりおおきなものにする

Agenda

1. 目的と目標
2. 進捗共有
3. 相談 Time

昨年の7月に各自で作成していただいた目標シートを振り返り、他のメンバーに取り組みの成果や創意工夫した点、また困難だった点などを発表していただきました。

メンバーは変わりましたが、2年目となるSDGsの取り組みということもあり、各部署のバックアップをいただきながら活動を進めているのが印象的でした。

発表後の相談タイムでは、前回のミーティングで決定したEARTH DAYの2つの活動、1.「古紙回収」と2.「佐久島清掃活動」について、各グループから進捗を共有した後、より具体的な活動内容について話し合いました。

1.「古紙回収」

カナックではお客様からお送りいただいた製品は入荷時の梱包材で、出荷することを基本としております。しかし、梱包材の不足が時折ある為、段ボールやミナパック(プチプチ)を購入しております。そこで、従業員の家庭で余る梱包材を集め、出荷時に用いることで、お客様の製品をより安全に、そして資源を再利用してお届けすることを目的としています。

2.「佐久島清掃活動」

カナックの東海営業所がある愛知県西尾市に佐久島があります。自然の美しさはもちろんのこと、アートと文化が息づく場所としても知られています。佐久島では漁業と観光業が主な産業であり、その両側面で支援する為には、私達が佐久島の魅力を知り、佐久島の魅力を発信していくことです。海岸沿いのゴミ拾いを通じて、自然あふれる佐久島を体感し、従業員同士楽しみながらゴミ拾いをする事が出来ました。

【第八回】2024.4.26 開催 SDGs ミーティング

テーマ: 振返りの実施、気付きと想いを継承する

Agenda

1. 目的と目標
2. EarthDay 振り返り
3. Discussion

まず、Earth Day の取り組みについては、「古紙回収」と「佐久島清掃活動」に関して各グループから情報共有を行いました。「古紙回収」グループでは、事前にポスターを作成して社内に呼びかけを行ったことや、Earth Day の期間限定の取り組みではなく、常時回収ボックスを設けることで、より貢献度の高い活動になるのではないかという意見がありました。「佐久島清掃活動」では、初めての活動でしたが多くの社員とその家族が参加し、大量の漂着ペットボトルを回収しました。活動を通して、改めて環境保全の重要性を認識しました。

Earth Day の振り返りの後は、今期全 8 回のミーティングでの「出来たこと」「出来なかったこと」「やりたかったこと」を振り返っていただきました。各部署で実施した取り組みの成果や Earth Day の取り組みの成果が主な話題として上がっていました。今回のミーティングで二期目の SDGs 推進メンバーとの活動は最後になりますが、可能な部署は引き続き取り組みを続ける予定です。各自が創意工夫しながら取り組んだことが、SDGs の目標達成に向けての大きな一歩となりました。今後も、各部署での継続的な取り組みを通じて、さらに多くの成果を生み出していけることを期待しています。

古紙回収



佐久島清掃活動



新設！社内図書室のご紹介

この度、様々な知識にアクセスし学びを深める場として、社内図書室を設置いたしました。この図書室の一番の特徴は、貯蔵されている本が、全て社内から寄贈されたものであるということです。寄贈によって、知識を他のメンバーと共有する機会を得ることができます。また、既存の資源を活用することで経済的にも環境的にも持続可能を目指しました。

そして、図書室を設置した場所ですが、以前は喫煙室として使用されていましたが、新たにリニューアルいたしました。

藤枝市にあります本社にお越しの際は、是非図書室にもお立ち寄り下さい。





株式会社カナック SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2023年2月1日
株式会社カナック
代表取締役社長 堀越弘也

SDGs達成に向けた当社の約束と取組

私たちは日本のものづくりと共に寄り添い、対話を通じ、製造業に関わる全ての人や地域と、活力ある未来を探求し続けます。

サービス

私たちは、カナック処理による金属の硬さを保証し、お客様と時代のニーズに応えるしなやかなサービスを提供することで、お互いの持続可能な成長を追い求めます。

<主な取り組み>

- 常にカナック処理の基礎データを更新することにより、サービスの研鑽に努めます。
- 製品品質をより高める為に、お客様からのご要望を真摯に受け止め、最善の方法を考え提供します。



環境

未来の環境をより豊かなものとする為に、社内でのCO2排出削減活動を推進します。また、カナックの化学技術で、お客様の環境負荷低減に貢献します。

<主な取り組み>

- 2030年度までにCO2排出量をSBTに整合した25%削減を目指します。（※2020年度対比）
 - > SCOPE1、2でのCO2排出量を全社員に毎月共有
 - > 環境報告書の作成と報告を毎年3月に実施
- 産業廃棄物の削減
 - > 可燃ごみと廃プラ（再生可能プラスチック）の分別
 - > コピー用紙の使用数削減



人権・働きがい

カナックは人種・国籍・性別・年齢・障害の有無・価値観・働き方等、一人ひとりの多様性を認め、尊重し、支え合うことで、理想的な職場を実現します。

<主な取り組み>

- 有給休暇取得の推進
 - > 有給休暇取得率50%/年
- 従業員満足度(Engagement Score)の定期計測とアクションプランの策定と実施
 - > 厚労省平均3.42
- 製造工場内の安全推進活動の実施
 - > 現場作業員からの改善要望80%対応



地域・社会貢献

持続可能な地域社会の実現に向けて、課題を学び、地域への貢献活動に積極的に参画いたします。

<主な取り組み>

- 職場体験の実施、地元出身者の積極的な採用
- 藤枝市環境保全協議会への積極的な参画



Kanuc